

[Timetable]

※出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

11月13日[金]

会場:早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

13:00	開場
13:30	開会 主催者挨拶 等
13:45-15:00	第1部 基調講演と基調報告「映画都市・新宿をみる」 基調講演 新宿の都市計画と映画館 基調報告 データで見る映画都市・東京
15:30-17:00	第2部 パネルディスカッション 世界屈指の“映画の街”新宿から、映画館の未来を考える
17:15-18:30	第3部 プレゼンテーションマラソン2026
19:00-21:00	レセプション 会場:早稲田大学大隈ガーデンハウス

11月14日[土]

会場:早稲田大学国際会議場会議室1-3

10:00-12:00	分科会① 新たな観客の開拓——学生・若者との共創 分科会② 〈小さな映画館/オルタナスペース〉の可能性 分科会③ オープンシネマ!——上映の場の境界を越えて
14:30	全国コミュニティシネマ会議開催記念上映会 会場:早稲田松竹

[会場]

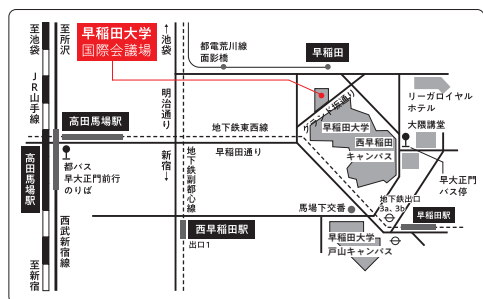
早稲田大学国際会議場(早稲田キャンパス)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-20-14

[アクセスマップ] <https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>



JR・西武新宿線・地下鉄東西線「高田馬場駅」から徒歩20分、または都バス[学02]で「早大正門」下車
地下鉄東西線「早稲田駅」から徒歩5分／都電荒川線「早稲田駅」から徒歩5分／地下鉄副都心線「西早稲田駅」から徒歩17分



[Information]

[お問い合わせ]

コミュニティシネマセンター TEL 03-3461-6983 E-mail film@jc3.jp

[主催] コミュニティシネマセンター

[共催] 早稲田大学基幹理工学部表現工学科

[後援] 新宿区/全国興行生活衛生同業組合連合会(全興連)/東京都興行生活衛生同業組合

[協力] 早稲田松竹映画劇場

[助成] アーツカウンシル東京[東京芸術文化創造発信助成(長期助成)]創造環境向上活動



The National Conference of Community Cinemas 2026

全国コミュニティシネマ会議
2026

[申込]

10月19日[月]より一般受付開始!

<https://cckaigi2026-tokyo.peatix.com>

* 参加を希望する方は、11月6日[金]までにお申込みください。

* 定員になり次第締め切らせていただきます。

* 参加を希望する方はお早めにお申込みください。

* 10月14日[水]よりコミュニティシネマセンター会員優先受付!

* 会員のお申込み方法は別途ご案内します。

[資料代/参加費]

会議:一般**2,000**円(大学生以下**1,000**円)

* 11月13日、14日共に参加可。一部のみの参加も同じ。

* コミュニティシネマセンター[団体]会員は1団体1名無料。

レセプション:**4,000**円



映画上映:一般**1,200**円

[入替制]

* 映画上映につきましては、早稲田松竹ウェブサイト(<https://wasedashochiku.co.jp/>)をご確認ください。



JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER

The National Conference of Community Cinemas 2026

全国コミュニティシネマ会議
2026

2026.

11.13 fri — 14 sat

会場:早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール(東京都新宿区)ほか

<http://jc3.jp/wp/conference/>

The National Conference of Community Cinemas 2026

全国コミュニティシネマ会議
2026

[Program]

11月13日(金) シンポジウム

会場: 早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール (定員:400人)

13:00 開場

13:30 開会 主催者挨拶

13:45-15:00 第1部 基調講演と基調報告「映画都市・新宿をみる」

基調講演 (13:45–14:30)

新宿の都市計画と映画館

戦後復興期「道義的繁華街」の建設を理想に掲げ、映画館や興行施設を中心に都市計画が進められた世界有数の歓楽街・歌舞伎町、紀伊國屋書店、カレーの中村屋、伊勢丹百貨店といった老舗が連なる新宿駅東口、東京都庁をはじめ高層ビルが林立する西口周辺エリア…。4館のシネコンと6館のミニシアター・名画座が共存し、映画ファンを惹きつけてやまない映画都市・新宿。人々を魅了する町・新宿と映画館はどのような変化を遂げてきたのか。

【講師】佐藤洋一

早稲田大学社会科学総合学術院教授・社会科学部学部長。1966年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了、博士(工学)。専門は都市史、ビジュアルアーカイブ研究。占領期から昭和期の都市像を読み解く著作として、『図説占領下の東京』(河出書房新社)、『米軍が見た東京1945 秋——終わりの風景、はじまりの風景』(洋泉社)、『あの日の新宿』(ぶよお堂)がある。

基調報告 (14:40–15:00)

データで見る映画都市・東京

東京・パリ・ソウルといった都市について、映画館数・スクリーン数、観客数など、映画上映に関するデータを比較する。

15:30-17:00 第2部 パネルディスカッション 世界屈指の“映画の街”新宿から、映画館の未来を考える

配信の時代にも、映画館で映画を見ることには固有の価値がある。その価値をさらに高め、観客を増やすためには何が必要なのか。観客開拓のための4つの仮説(体験の場としての映画館／共通鑑賞パス[サブスク]／料金設計の工夫／マップと回遊)について国内外の事例とデータをもとに、実現のためには何が必要なのか、何が障壁となるのか、実現した場合の効果等について話し合います。“作品の力”に加え、映画館・上映者自身には何ができるのかを考えます。

推し文化・体験の場としての映画館

ライブビューイング、応援上映、舞台挨拶中継、あるいは活弁・伴奏付上映やゲストトーク付上映、映画祭や特集上映といったイベント上映は、配信では代替できない「その場に集まる」体験として新しい観客を劇場に惹きつける。国内外の事例から、映画館の「体験価値」を考える。

「共通鑑賞パス(映画館のサブスクリプション)」の可能性

複数の映画館で使える定額制・会員制パス、「映画館のサブスク」は、とりわけ若年層の鑑賞頻度を高めるのではないかと期待される。オランダ発の独立系映画館共通パス「シネヴィルCineville」(2009年～)は成功をおさめ、ベルギー・オーストリア・ドイツ等へ拡大、フランスでも定額制が広がる。日本での成立の可能性と課題を考える。

料金(割引)設計の工夫

映画館では、サービスデー・レイトショー割・学生割・シニア割といった様々な入場料金の割引が定着している。さらに、若年層観客開拓のための様々な試み(10代の観客へ映画のプレゼント、学生500円、サブスク制…)が試みられている。“サービスデー”の一步先にある料金設計の可能性を考える。

“映画館都市・東京”から「映画館」を再起動する

全国コミュニティシネマ会議は、映画上映を行う人たちの情報交換と研究報告、ディスカッション、そして交流の場です。全国各地の映画館や映画祭、シネマテークや公共ホール、自主上映団体、配給者や製作者、研究者や学生等々、上映活動、文化事業、コミュニティシネマの活動に関心のある人たちが集まります。

今年の会議の舞台は“東京・新宿”です。2025年、日本の映画市場は、観客数1億8,875万人・興行収入2,744億円と歴代最高を記録しました。業界が掲げてきた「年間2億人」の目標が現実的な視野に入るいま、次の観客——とりわけ若い観客とライト層——をどこから迎えるかが、興行・上映活動の規模と地域、種類を問わず共通の課題となっています。

“世界屈指の映画の街”新宿で、シネマコンプレックス、ミニシアター、シネマテーク等々、それぞれの現在地を共有し、国内外の観客開発の事例をもとに、街ぐるみで観客を増やす道筋を考えます。

※プログラム、出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

新宿映画館マップと回遊

多言語マップ、半券相互割引、はしご鑑賞スタンプ等々。駅を通過する人々を観客へ、1館の観客を2館目の観客へと誘導するための方策を考える。

【登壇者】

佐々木伸一(東京都興行生活衛生同業組合 理事長/佐々木興業 会長)/志尾睦子(コミュニティシネマセンター代表理事/NPO法人たかさきコミュニティシネマ代表理事)/平塚千穂子(シネマ・チュブキ・タバタ 代表)/吉田充孝(TOHOシネマズ株式会社 代表取締役社長) ほか

【モデレーター】土田環(早稲田大学理工学術院教授/コミュニティシネマセンター理事)

※登壇者等詳細については、コミュニティシネマセンターウェブサイト <http://jc3.jp/wp/conference/> でご確認ください。

17:15-18:30 第3部 プレゼンテーションマラソン2026

〈新宿区の映画館・シネマテーク・その他〉*予定

新宿ピカデリー ◆ TOHOシネマズ新宿 ◆ 新宿バルト9 ◆ 109シネマズプレミアム新宿 ◆ テアトル新宿 ◆ K's cinema ◆ シネマート新宿
kino cinéma新宿 ◆ 早稲田松竹 ◆ 東京日仏学院 ◆ 韓国文化院 ◆ 国際交流基金 ◆ 早稲田映画まつり ◆ 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ほか

19:00-21:00 レセプション

会場: 早稲田大学大隈ガーデンハウス (定員:200人)

11月14日(土) ワークショップ(分科会)

会場: 早稲田大学国際会議場会議室1-3

10:00-12:00 ①新たな観客の開拓——学生・若者との共創

配信が普及する中で若者の映画館離れが指摘される一方、全国各地で学生や若い世代による主体的な映画コミュニティが生まれ、上映活動が活発に展開されています。各地で熱意ある取り組みを続ける学生や若者たちの活動報告を手がかりに、上映関係者との連携や観客開拓に向けた新たな共創の可能性を議論します。

弘前大学映画研究会 ◆ 早稲田大学映画研究会 ◆ 映画チア部神戸本部

現役日藝生による映画祭 ◆ 映画上映専門家養成講座企画実践グループ 等

【進行・コメンテーター】上田真之(早稲田松竹)、立木祥一郎(黒石アートBOX、青森県)、北條誠人(ユーロスペース)、山崎紀子(シネ・ヌーヴォ) ほか

②〈小さな映画館/オルタナスペース〉の可能性

近年、全国各地に20席に満たない小さな映画館や上映を中心とした事業が行われるスペースが生まれ、注目を集めています。上映会や映画祭を実施しながら映画館の開館を目指す団体や、映画館のない町に開館した小さな映画館…様々な事例を紹介するとともに、地域文化における可能性を考えます。

白マドの灯(八戸市) ◆ ル・シネマ・キャトル(北海道東川町) ◆ シネマ203(和歌山) ◆ Cineyama(シネヤマ山梨) 等

【事例紹介】コミュニティシネマセンター

【進行・コメンテーター】戴周杰(八戸工業大学感性デザイン学部)、竹中翔子(シネコヤ) ほか

③オープンシネマ!——上映の場の境界を越えて

多国籍・多言語の観客に向けた上映、障害の有無にかかわらず鑑賞できるユニバーサル上映や託児付上映、さらには映画館の外へ飛び出す移動上映等々、各地で上映の「境界」を取り払う実践が試みられています。多彩な事例を紹介するとともに、誰もが大きなスクリーンで映画を楽しむことができる環境をつくるためには何が必要なのかを考えます。

早稲田松竹 ◆ 中日本興業(ミッドランドスクエアシネマ) ◆ 松本CINEMAセレクト 等

【進行・コメンテーター】志尾睦子(NPO法人たかさきコミュニティシネマ)、野口彰(全興連)、平塚千穂子(シネマ・チュブキ・タバタ)

関連企画:全国コミュニティシネマ会議開催記念上映会

異文化が集まる街・高田馬場で考える「アジアの中の私たち」

会場: 早稲田松竹

【上映作品】

14:30-16:05

『留学生チュア スイリン』(演出:土本典昭/1965年/51分/デジタル/英語字幕付き)

【トークゲスト】石坂健治(映画研究者・日本映画大学映画学部教授) + 蘇鈺淳(映画監督)

『愛について、東京』(監督:柳町光男/1993年/113分/35mm/英語字幕付き)

16:20-18:55

【トークゲスト】柳町光男(監督) + 藤井仁子(映画研究者・早稲田大学文学学術院教授)

協力:早稲田大学土田研究室

※上映時間等、詳細については、早稲田松竹ウェブサイト(<https://wasedashochiku.co.jp/>)でご確認ください。

